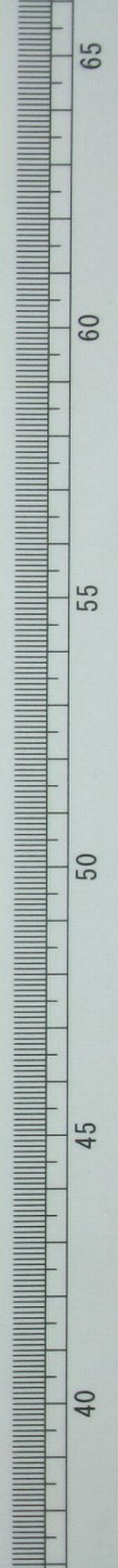




乙

小倉文庫 持  
イ 16  
15



門 116  
號 15  
卷

寬永四年玄光序

塵

去刀記

四卷本

上下二冊

昭和二十七年  
六月二十日  
受入

下冊

卷之第三  
卷之第四



卷之七

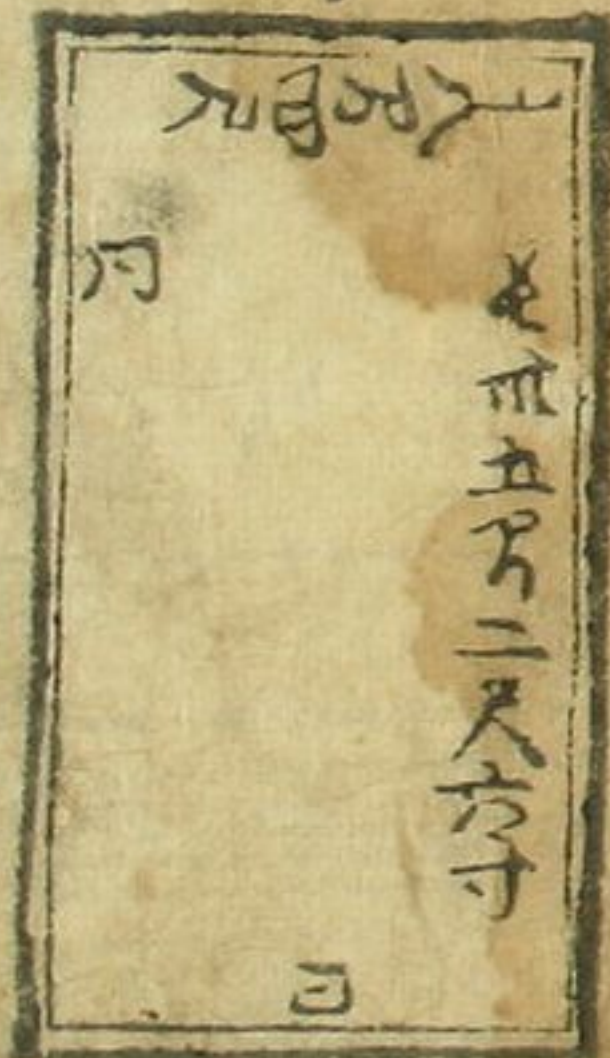
檢地のし

○四反八畝十歩



はしを横の勢左右よ五かゝり千四五百五拾坪よ  
なる是と田の法三にて割時四反八畝十歩と割

○二反一畝廿八歩九分



はしを世五方二尺六寸と右よを割一けんより

六尺一寸をうへに六尺三寸一寸より  
 又右より十八間四尺に垂して一けんよりうへ  
 六五とくこれをも十二丈一尺とらるこれと右に  
 廿三丈一寸よりうへに一丈の坪を百七十八坪  
 四分二りまもやしてたらるなり 此れを一坪の法  
 四二二五にしてしれは右の格八坪五分なりと  
 なるなり 此れを田の法三よしてしれは二反一畝  
 廿八歩五分なりなりなりなり

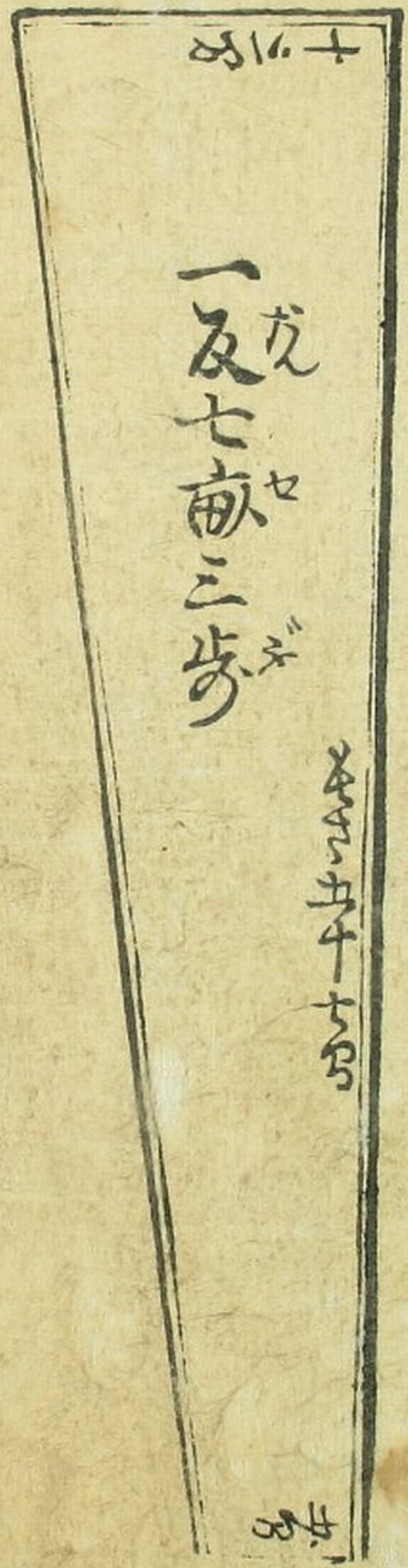
二反右に二尺六寸と六五とてしれは世五間四と

右又横十八間四尺を四尺りりりを六五とて  
 右の十八間六尺一丈又一寸あまりあるとハ  
 寸してはふたつをさしと右をなまてしれは  
 〇右の四十八坪に分りたりなりなり

右に右にちうひませうくのいへんおのり  
 右のちとあややくん角らり一けんうらうら  
 尺寸の六五とてわりてちうひませうのいへん  
 一又まのハだう寸いもくく入て垂して  
 右のちとあややくん角らり一けんうらうら  
 尺寸の六五とてわりてちうひませうのいへん

計 一畝廿八歩合あり とき七十六歩

法より七十六歩より五尺をかくれども三八と成  
 二心と五尺にして五尺の格八坪中より六リと成  
 是を田此法之にして刻も一畝廿八歩四分六リと  
 成るる



法より三十三歩より又五歩とくまのりきり  
 十八歩より成これと二ツよりわふ時九歩より成是と  
 ちぬ十七歩より成これ五百十三坪とるなりこれと  
 田の法之にしてより時一及七畝三歩とるなり



はよ十二歩と二ツよりわり六歩よりなりこれと  
 かくき四拾歩よりこれと成百四拾坪なりなる  
 是を田此法之にしてあふ時八畝とさるる

○三畝七歩四分



法より十五畝左右より垂くこれより七五坪は  
これより又三角の法四三三をわくはとまきこ  
九拾七坪に分ニリ五毛は畝是を田の法三由で  
刻時一三畝七歩四分ニリわくとまきこへし

○八畝十二歩



法より横十八方と二ツより横六方より  
この山を七廿八畝より横六方五十二坪は  
是と田の法三よりわくは八畝十二歩とまきこ

○九畝三歩



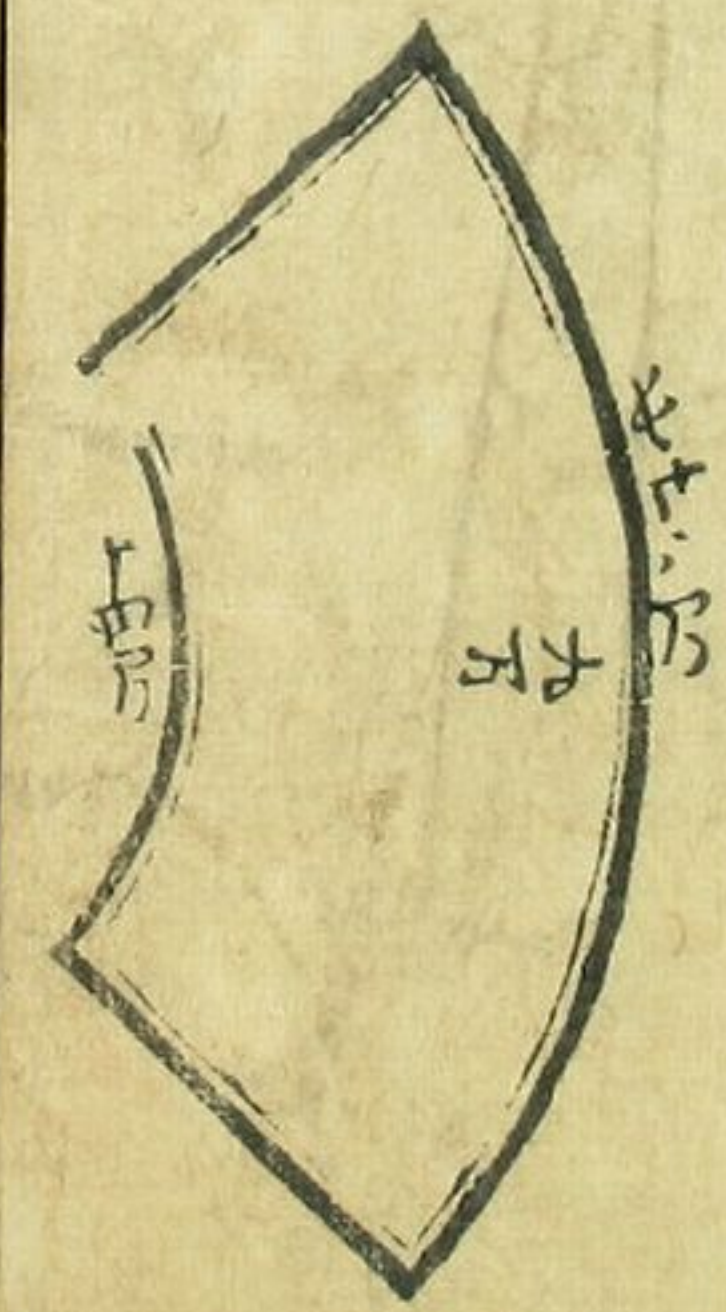
法より横十四方と二ツより横七けんより  
これと七廿九下よりわくは九畝三歩は  
まきこはこれと田の法三よりわくとまきこ  
九畝三歩とまきこ

○一及一畝方歩



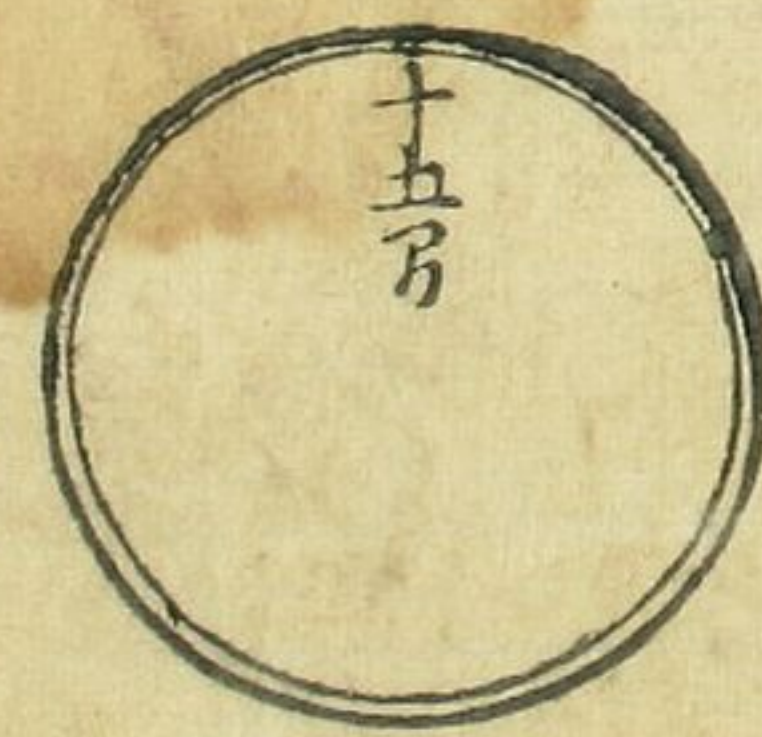
法より三十十六びんの中廿八万歩とらひ入て  
又十一万歩とらひ入る時合廿六万歩なる是を  
二ツより引ぬる十二万と成是より廿八萬と成  
三百廿六坪と成田法三て割一畝一歩と成

○六畝方歩



法より廿八万と十四万と合分時四拾二万とらひ  
是二ツより引ぬる廿一万と成是より九万とらひ六  
百八十九坪となる田法三て割一畝一歩と成

○五畝廿七歩七分あり



法より十五万と九万と重くしこれに或百廿五坪よ  
る方なりこれよりまき法七九とから成時  
百七十七坪七分ありと成これより田の法三に  
て割一畝廿七歩七分ありと成る也

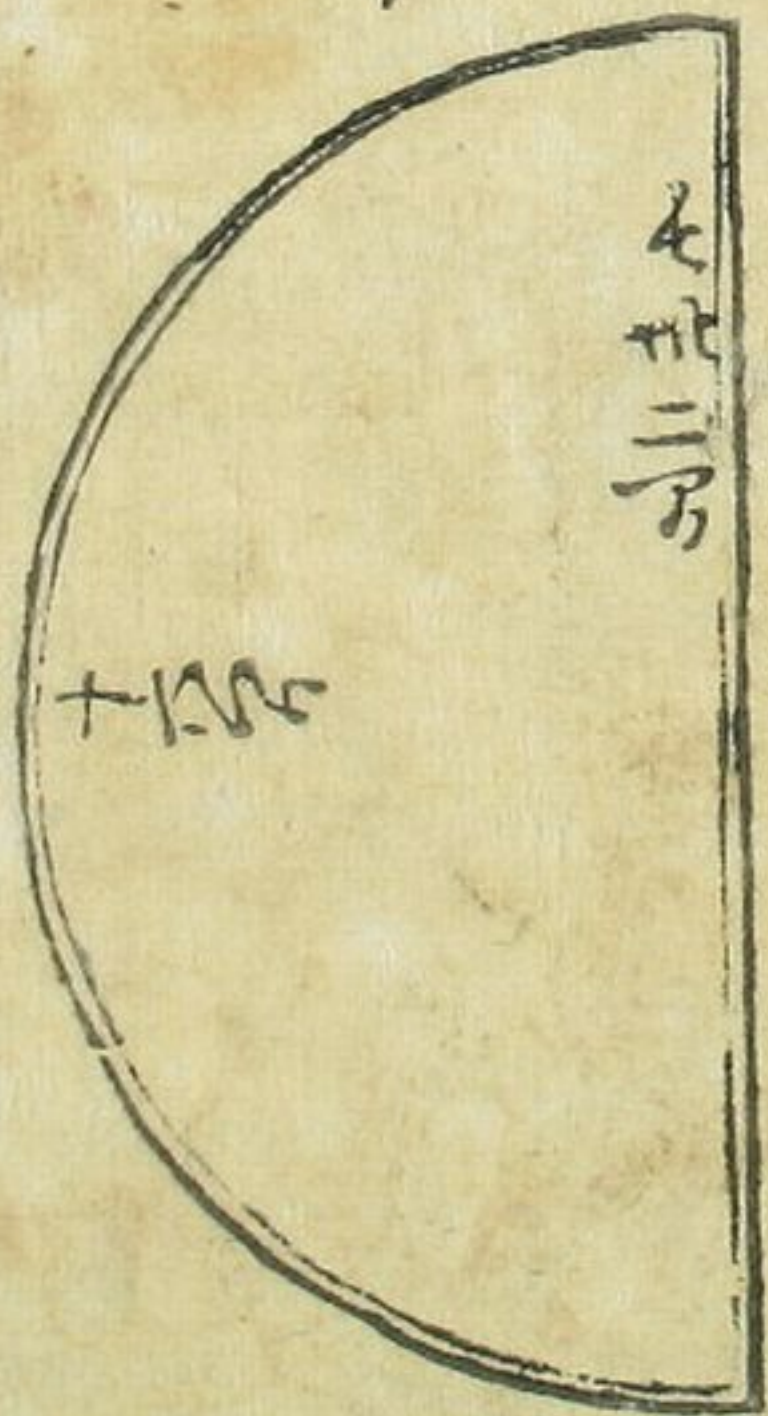
○五畝廿七歩七分五厘



法一圓きゆーわーうーぬぬ時ままわりを  
うはせきりー四拾七咫二尺六寸あり二尺六寸  
ハ一りを六五よそわぬを四十七咫四寸とあり  
二心と圓きめくり此法三一六めてわぬ時  
ままきりーわー十五はしやとありへし  
け十五咫を左右よとまめくぬゆら廿五坪よ成  
まらき法七九とらぬ百七十七坪とありと

るゆかりとと田の法三にわぬとあり  
五畝廿七歩七分五厘とありへし

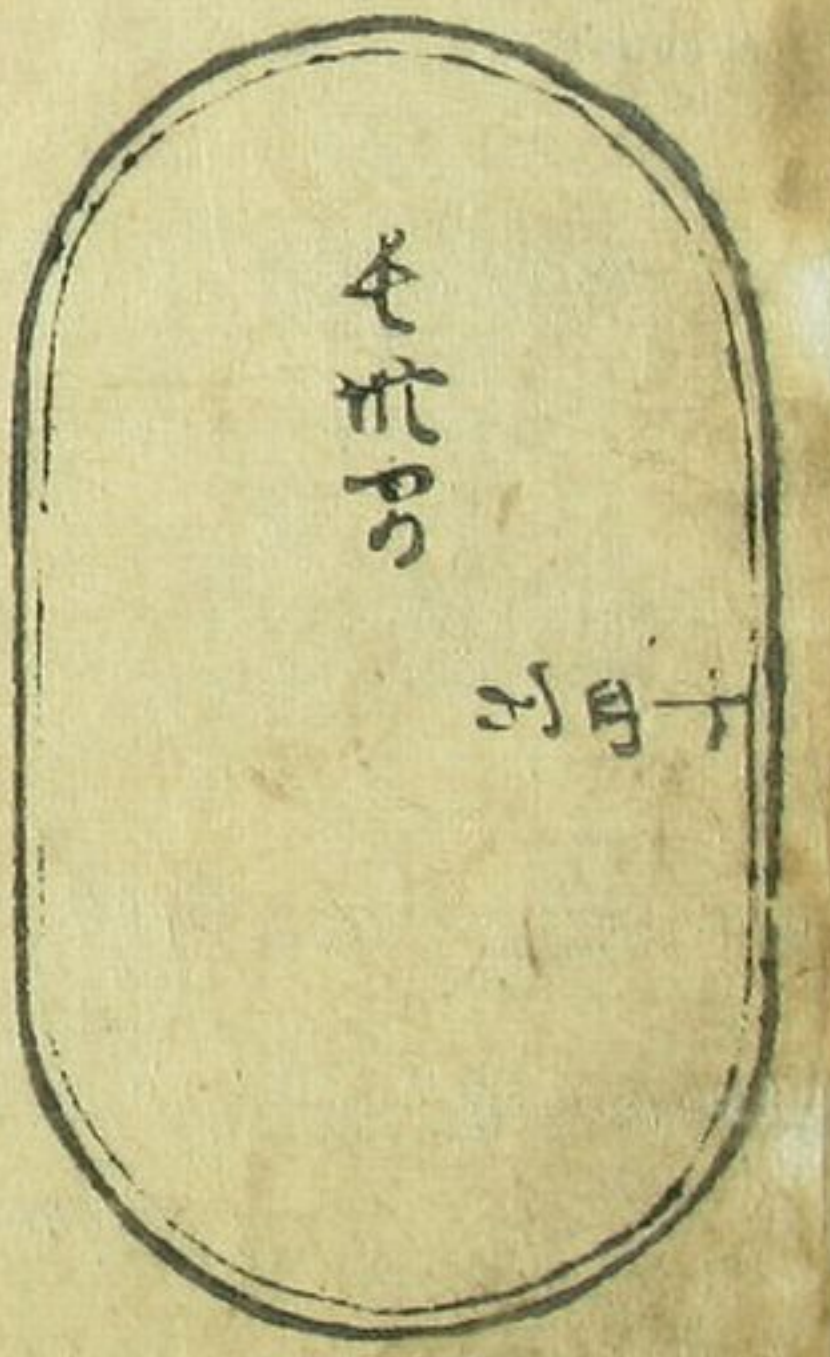
○一及二畝十四歩四分一厘



法一圓きゆーせ二方ー撥十六方とくぬと  
五百十二坪ぬとありこれ一又まらき法  
七五をかくれと四百四坪四分一厘とあり  
田の法三よとわぬとあり一及二畝十四歩  
四分一厘とあり



〇一及二畝十八歩八分四厘



法は右に於てのうらとよこ十四間引時よ於て  
 十六間を是よ十で割るをうらに百七十四坪は  
 これを右よへちよ垂又右よ十四間左右よをき  
 くら其一九六よたくら七よ同じ法七九くられん  
 百四十四坪は分四りと成これと右よよくらへ  
 時よ三百七十八坪は分四りと成これと田の法  
 三てよこれ一九二畝十八歩八分四りとさるこ

〇一及九畝廿四歩



法は右に於てのうらとよこ十四間引時よ於て  
 九畝カ男より二間ふよ此の四十九間をよ成  
 これより換十二間をくら此の五百九十四坪は成  
 これと田の法三よをわらへ

〇一畝二畝四歩



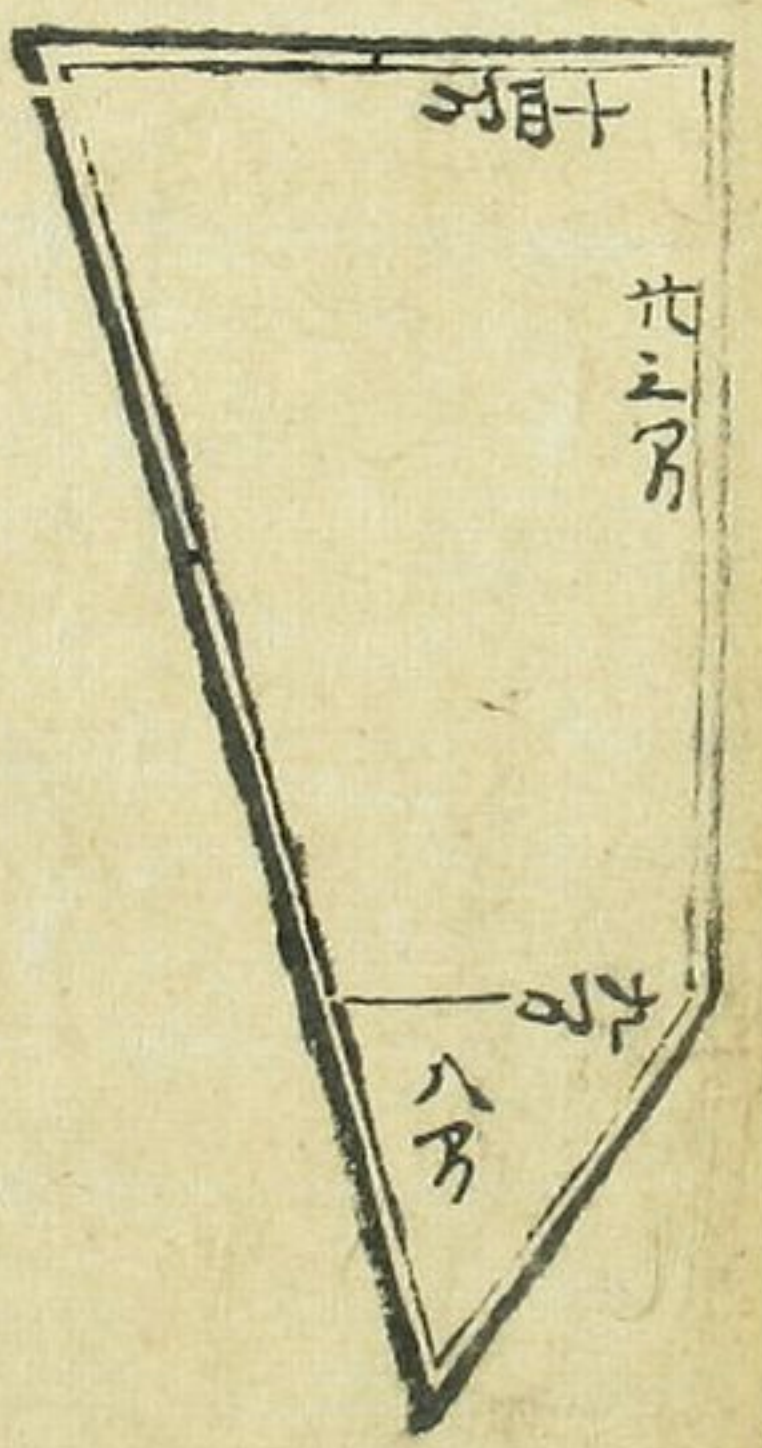
法一、一と廿六万と二つよはぬの十三割り  
 ろり是を廿八万りかくれを三百六十四坪と  
 するべし 一畝を田は法三にしてわぬとせしり  
 一及二畝を歩とせりへし

〇一及一畝十二歩



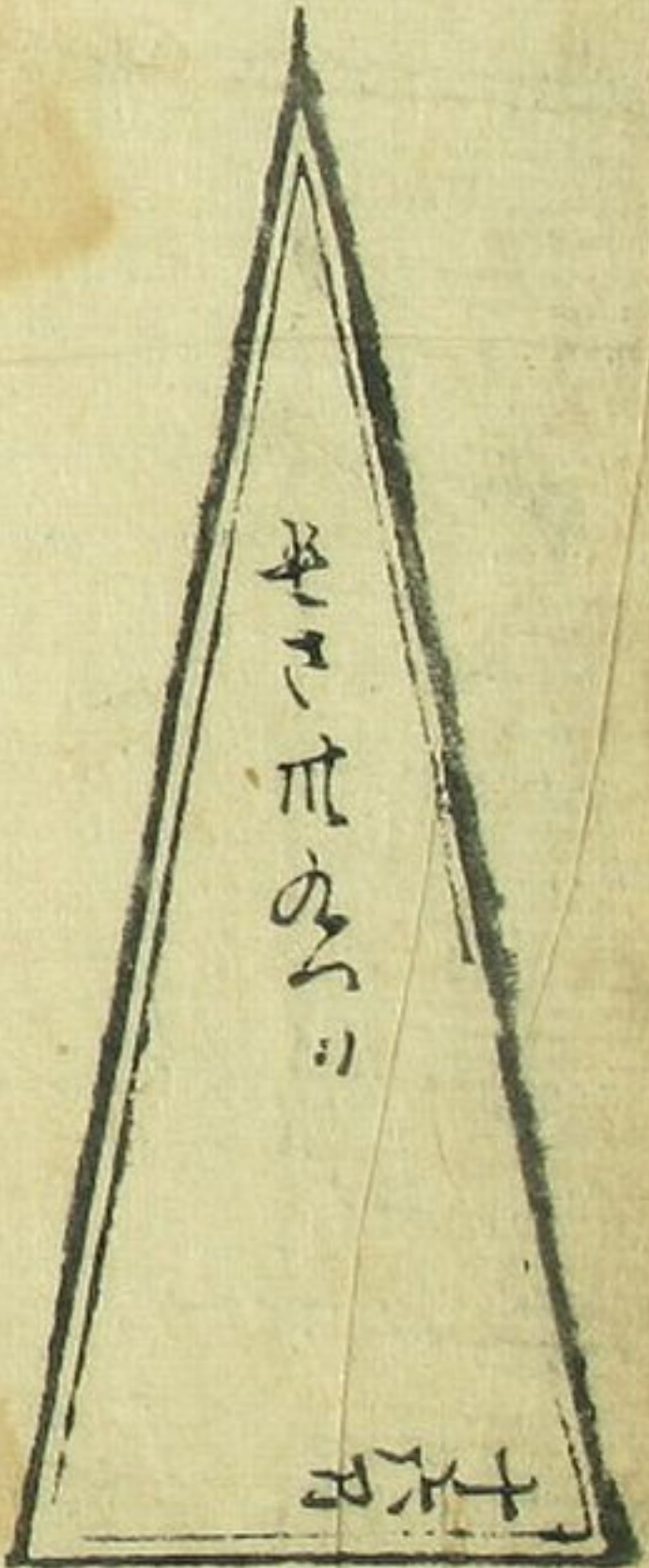
法一、一と廿八万と二つよはぬの十三割り  
 ろり是を廿八万りかくれを三百六十四坪と  
 するべし 一畝を田は法三にしてわぬとせしり  
 一及二畝を歩とせりへし

〇一と五畝



法一、一と廿六万と二つよはぬの十三割り  
 ろり是を廿八万りかくれを三百六十四坪と  
 するべし 一畝を田は法三にしてわぬとせしり  
 一及二畝を歩とせりへし

○一及十二歩



法は十六男二ツよりわるともきし八男は娘これ  
 世九男よりくぬれ三百十二坪は娘田法三より  
 われえ一とえん十二歩やとて原

○一及三畝十五歩



法は九男よりくぬれ世三男より又十二男とくぬれ分時

四十五男より娘二ツよりわるとも世二男は娘  
 これ横十八男とくぬれ四百五坪は娘田の法  
 三よりわれえ一及三畝十五歩とて原

○一及三畝十九歩半



法は世九男より十八男をかくれ七百二坪小版  
 これを女よりへちよ五〇又六男はけとぬ男の  
 けよりくぬれ時十五男は娘是と二ツよりくぬれ  
 七男は是より世九男よりくぬれ九十二坪は

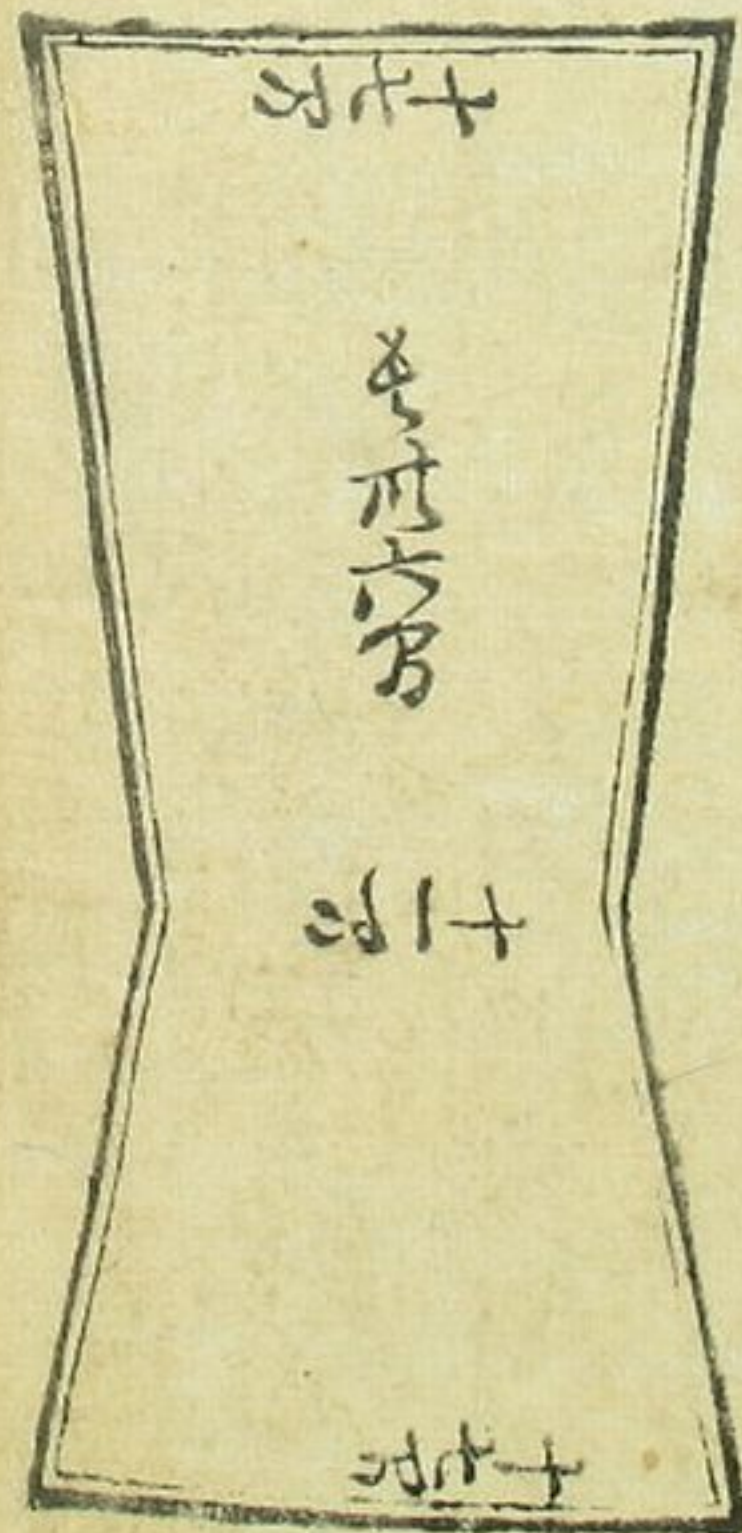
方より程右の内を引一付砂を四百九坪あるの  
田の法三にしてはれ右の程を三してはれしるわ

○一畝四歩



法よ是廿八方より十五方とくはれはるる北坪よ  
田の法三にしてはれ右の程を三してはれしるわ

○一畝六畝廿四歩



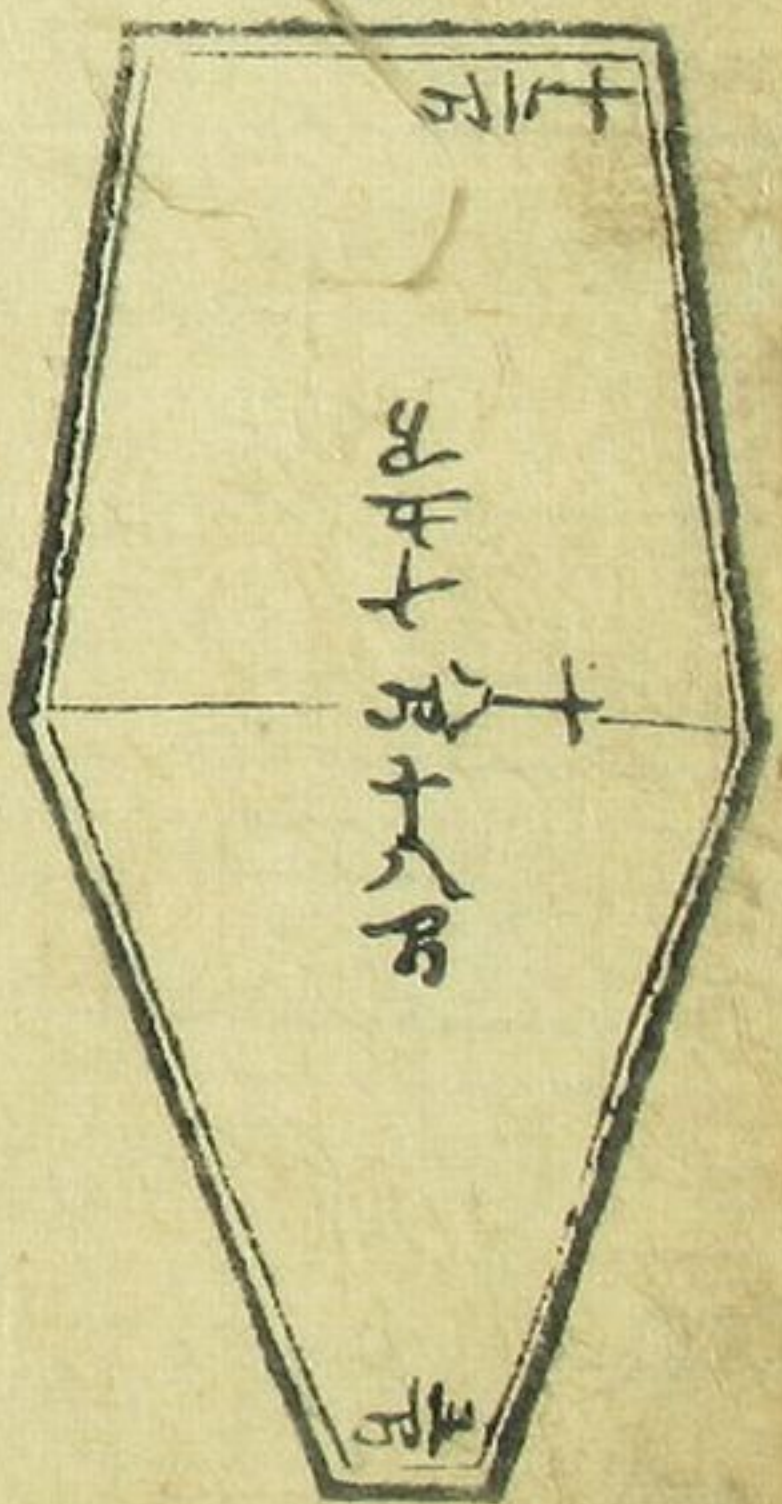
法よ十七方より十一方とくはれはるる北坪よ  
又十六方とくはれはるる北坪よ  
これよ是き世六方とくはれはるる北坪よ  
田の法三にしてはれ右の程を三してはれしるわ

○二畝四畝九歩



法よ六十三方より十八方とくはれはるる北坪よ  
二つよ是より時十方よ是より是より十八と  
わくはるる北坪よ三して刻二畝四畝九歩と

○一及三畝廿四歩



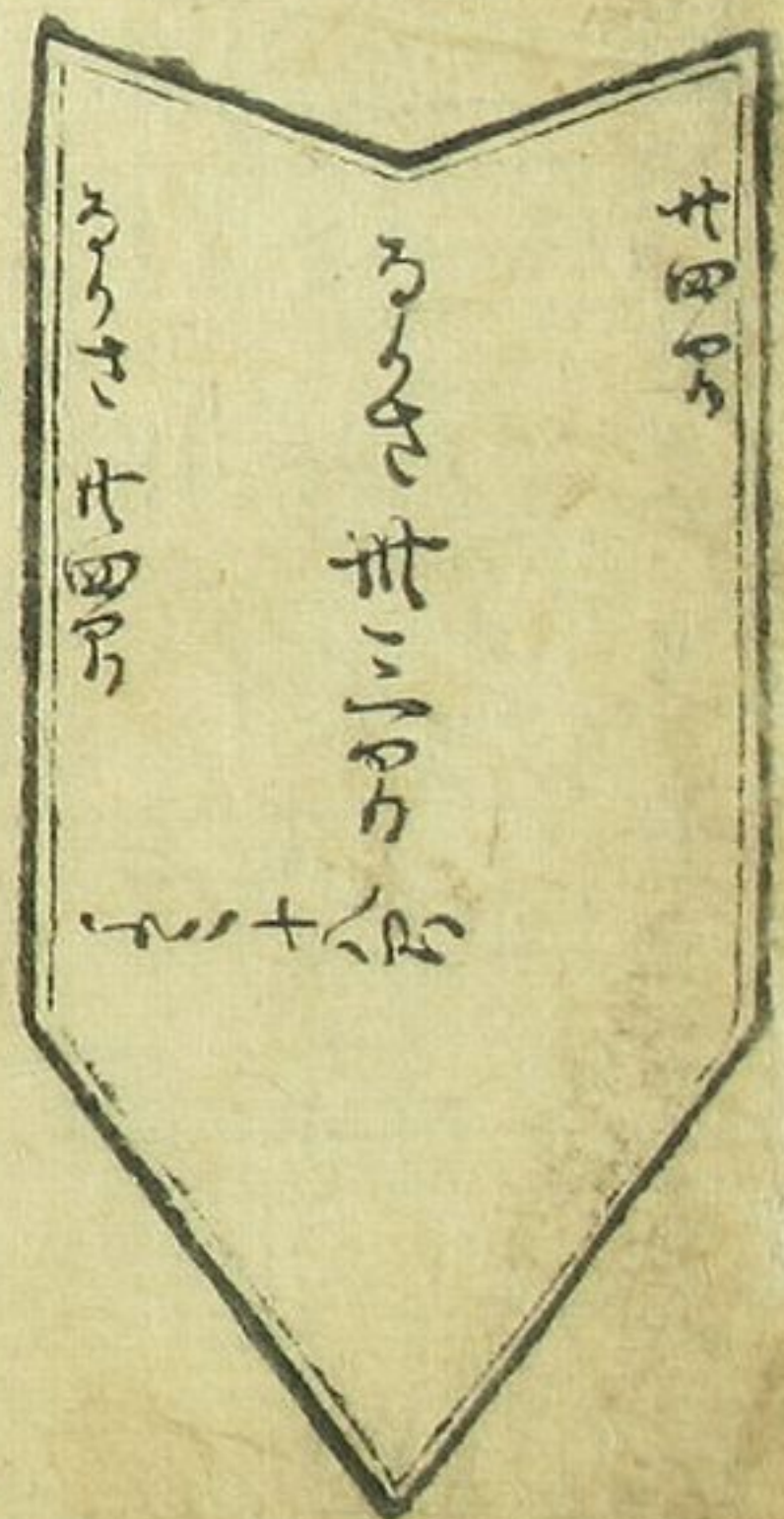
法は十二万より十八万加へり時世万より二万  
 ち畝計十五万より一万余りこれより一万余り十五万を  
 一万余りを減り廿五坪より一万余りをきり○又  
 撥十八万より三万をきり一万余りより廿一万より  
 二万小わたり十坪より一万余りをきり十八坪より  
 一万余りを百八十九坪より一万余りを減り廿五坪より  
 一万余りを十坪より一万余りを減り三坪より一万余り

○四畝二十四歩



法は二万を二つより一万余りて一万余りなるは  
 一万余り廿四坪より一万余りを減り廿四坪より  
 一万余りより十八万をきり一万余りより廿万より  
 二つわりて十けんより一万余りこれを十二万小  
 ち畝計より百廿坪より一万余りこれを減り廿四坪より  
 一万余りより一万余り百四拾四坪より一万余りを減り  
 一万余り四畝計より一万余り

○一及七畝三歩



法一と世三町よ廿四町らとくへてめ餘七町よは  
 これを二つよとれは廿八町より一町よりこれよ  
 一と十八町からこれを五百十三坪よるはこれを  
 田の法三てわう時一及七畝三歩とさうな  
 右擲地の積うは所見ありせうん用方の  
 皆必お同かしてと世初公故人よとて一の  
 各めとして大くこめけと

○一及七畝三歩

知り物ぬ乃事

一及七畝三歩 斗代一及三斗  
 右とてふふとてとてとて

○言字名五斗とつと

法一と二及七畝と右よ五斗をさこれと  
 言字名五斗とさうへし

○一及三畝廿一歩  
 右とて何初とてとてとて

○言字名五斗とつと

法一と九と三畝廿一歩とてとてとてとて

廿一歩を三にして日ろ付よ九方ん三或七となり  
これよ一石五斗をくく此言とあるへし

一 三万五千或百石を 右に物ぬ六ツ五分ぬと  
いふ時右に言ふ物ぬ捨て何れにう中電さふ時

○物ぬ二万二千の百り捨石といふ

法よ三万五千或百石を右に言ふをき六ツ五分を  
わくれを右のものぬ成とあるへし

一 燃一擲と云と云一石の内き千百燃れぬ成と

一 言三万五千或百石あり げ物ぬ二万五千八百  
八拾石をこれいづく物ぬを同時

○六ツ五分よなるといふ

法よ物ぬを右よ垂きにしてまぬぬ六ツ五分とぬ  
一回言三万五千或百石物ぬ二万二千八百八拾石  
あり時ろんろんよあふろろろとさう時

○三擲五分といふ

法よ言の内をものぬけりしをめて一万二千  
三百或捨石をこれと云てまぬぬ云ろん五分に  
一物ぬ六ツ五分うして物ぬ二万二千八百八拾石  
あり時ろろろまぬぬといふ時ろ

○言三万五千或百石といふ

はよりの成二千二百八十石と六分五厘  
はよりの成二千二百八十石と六分五厘

一 抽銀二万二千二百八十石と六分五厘

一 抽銀六千二百八十石と六分五厘

○ 口米 口米 口米 口米

はよりの成二千二百八十石と六分五厘  
はよりの成二千二百八十石と六分五厘

一 抽銀二万二千二百八十石と六分五厘

一 抽銀六千二百八十石と六分五厘

○ 口米 口米 口米 口米

はよりの成二千二百八十石と六分五厘

はよりの成二千二百八十石と六分五厘

二万四千七百八十石と六分五厘

一 抽銀二万四千七百八十石と六分五厘

一 抽銀六千二百八十石と六分五厘

○ 口米 口米 口米 口米

はよりの成二千四百七十石と六分五厘

一 抽銀二万四千七十石と六分五厘

はよりの成二千四百七十石と六分五厘

○ 口米 口米 口米 口米

はよりの成

はよりの成



いり 右よ二万四千七百拾石四斗あり  
ひよりふ石一斗と重きを八斗にしてわらふ時よ  
一三五とかなるをばして右よとわらふとわらふ  
千八百廿石四斗とあらふ

一 句 中 米 口 米 史 米 廿 二 万 四 千 七 百 拾 石 四 斗 五  
右のうちに米をふりてわらふとわらふ

○ 口 米 四 百 拾 石 五 斗 一 斗 一 斗  
法一 右よ一石一斗と重きを五斗にてわらふ  
五四とあられて右の二万四千七百拾石四斗と  
右のうちに米をふりてわらふとわらふ

一 本 米 口 米 史 米 廿 二 万 四 千 七 百 拾 石 四 斗 五  
史米りてわらふとわらふとわらふ

○ 史 米 千 二 百 七 拾 二 石 五 斗 一 斗 一 斗  
はよ右よまゝの米と重きを五斗にてわらふ  
一八とかなるをばして右の二万四千七百拾  
石八斗とあらふ

一 史 米 千 二 百 七 拾 二 石 八 斗 五 斗 一 斗 一 斗  
わらふとわらふとわらふ

○ 本 米 二 万 二 千 七 百 拾 石 五 斗 一 斗 一 斗  
はよ千二百七拾二石八斗と右よまゝの米をばしてわらふ

○中米二万二千石とある

一 口米四百石餘七石五分を計け中米とすふれく  
ろくせうとある

○中米二万二千石とある

法一 口米四百石五分を二米として口米  
中米としとある

一 口米中米とす。千八百廿石四分五分は中米ハ  
何れとすといふ

○中米二万二千八百石とある

法一 千八百廿石四分五分を中米として口米とし

一 口米中米とす。千八百廿石四分五分は中米と

何れとすといふ

○中米千七百七拾二石五分とある

法一 口米中米とす。千七百七拾二石五分は中米にして口米ハ  
七五とありこれより右の千七百七拾二石五分と  
わかれ中米千七百七拾二石八斗とある

一 口米中米とす。千七百七拾二石八斗は中米と

何れとすといふ

○口米五斗とある

法一 口米中米とす。五斗は中米として口米とし

九千九

金銀もくのりうい 付積のし

一 四守為千五百枚と三守ふまうりてうふおし  
とーたていしー

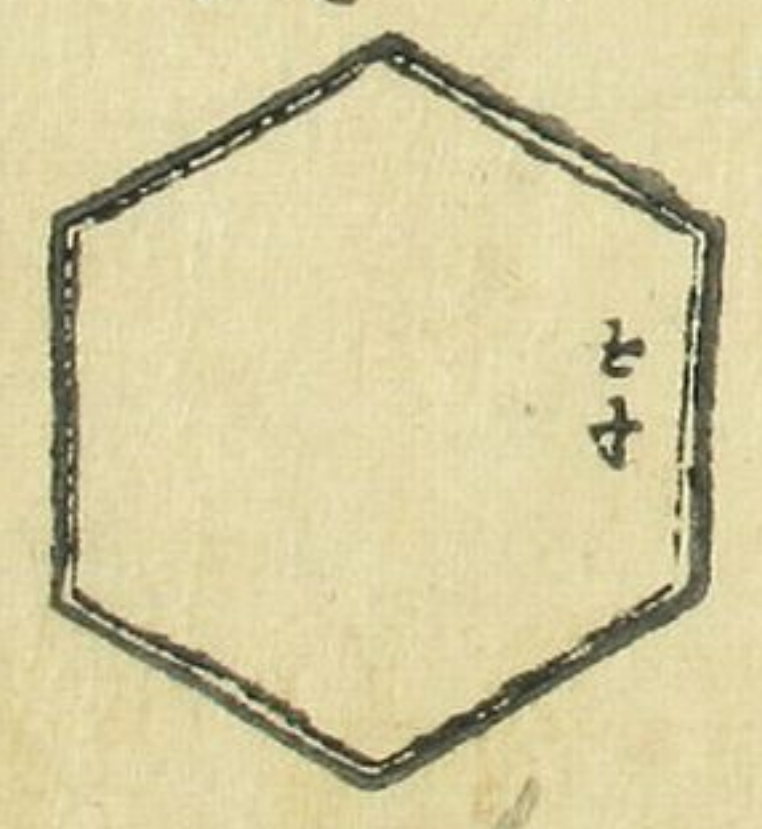
○ 三守為二千六百六十六枚六分六厘とらめ  
は、四守とを右よをまうり六十六坪いするは  
あれ、三守為千五百枚らめくれハ二万四千坪は  
るうなかりこれと右いしちよ五〇又じりり  
三守とを右よをまうりてうくれも九坪は成是らて  
右、二万四千坪を刻て二千六百六十六枚はら  
六りおしとあし

一二枚びょうのさき五尺とく三尺ありあまた  
 ようたぐさきり四寸此金巻うぶれい入に  
 ○百八拾七まいなりとらふ

法よ五尺よ六尺とくこれ六寸の坪三子坪は  
 これを四寸為の坪寸十六めてわなし  
 百八十七枚半とまれどとそめんと一わめも  
 ニわめも入るちこれも薄よのりし  
 めけしちるる

六角うら物此角のともて七寸のあり  
 あれよ三寸金巻とく時あるんねり入る中  
 とうり

- フ寸坪百七十七坪三分あり
- 三寸為十四枚一分四り入

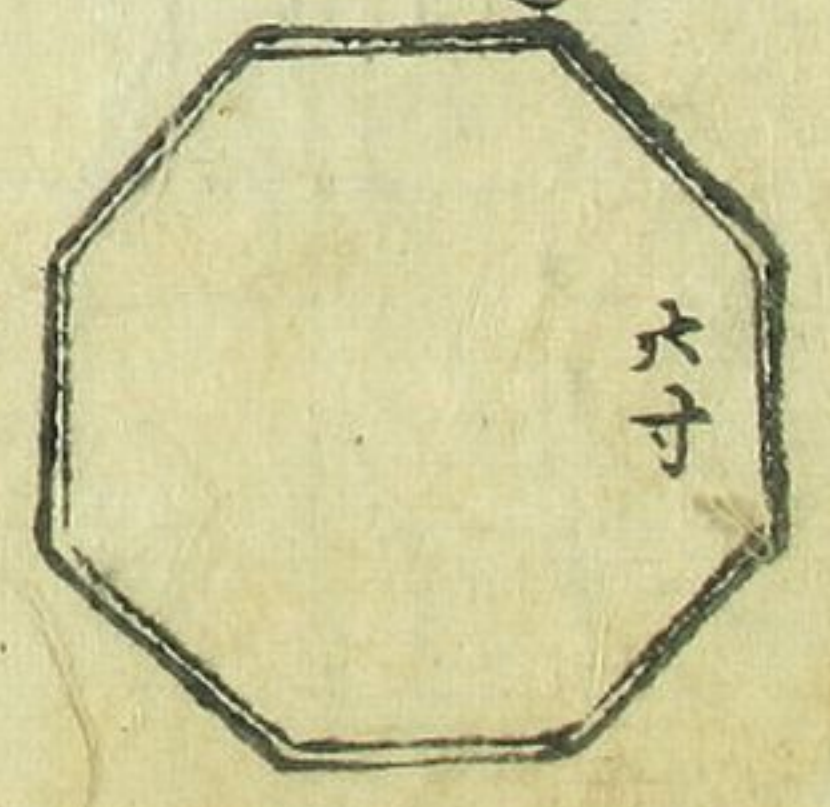


はよ七寸と右有よをきうら四九とぬこれと  
 六角の法二五九八くこれ百七十七坪三分二毫あり  
 二寸と三寸為れ九坪にせしむる三寸のき  
 十枚敷一分四りとちる

一八角のをもて六寸のついで毎寸五分三寸は全長  
 ちふれへ入るゝ四寸

〇一寸坪百七拾三坪の分り

〇三寸もく十九坪の合一り入



は六寸と有るをまわりの三六と成る  
 二とくは七二と成るは四一四二で  
 目付の百七十三坪八分三厘と有るは又  
 九にてもり時十九段と分一りともる  
 右より用とまけよとせ入ると是の



塵劫記卷之第四目錄

廿一 川ふきんじ



廿二 糸あきんじりの

廿三 木のろりきとまらうとてはらう

廿四 町はかり

廿五 開平法の事

廿六 開立法

才七

川譜目録

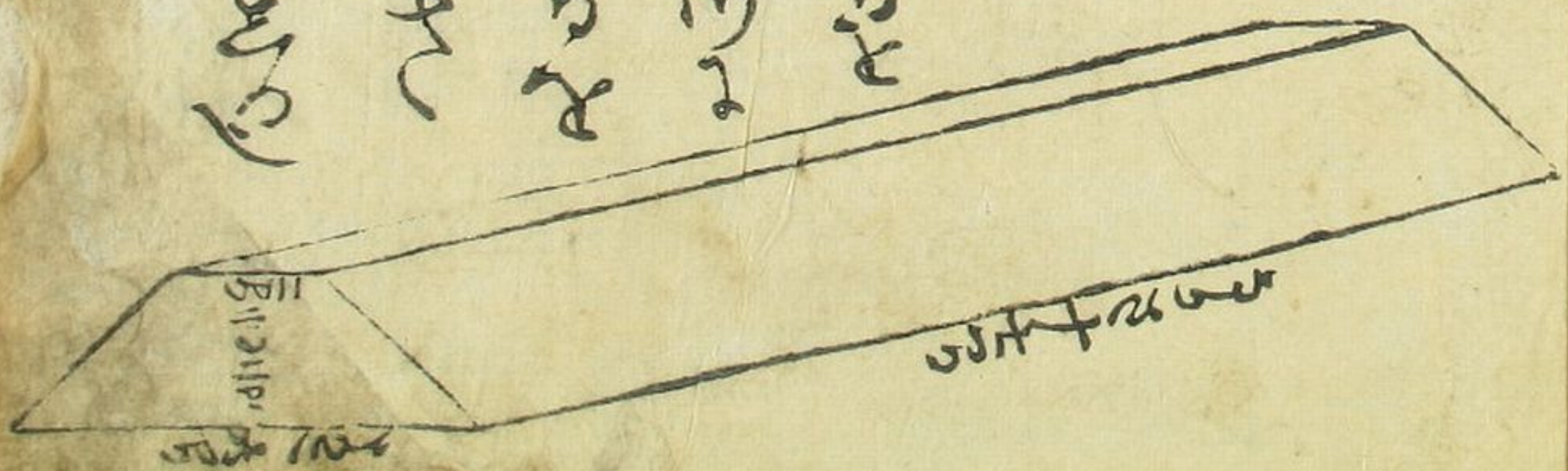
才丹

カニシ  
河譜録の事

一 才丹の譜教をふりかへる事

百廿六冊の事

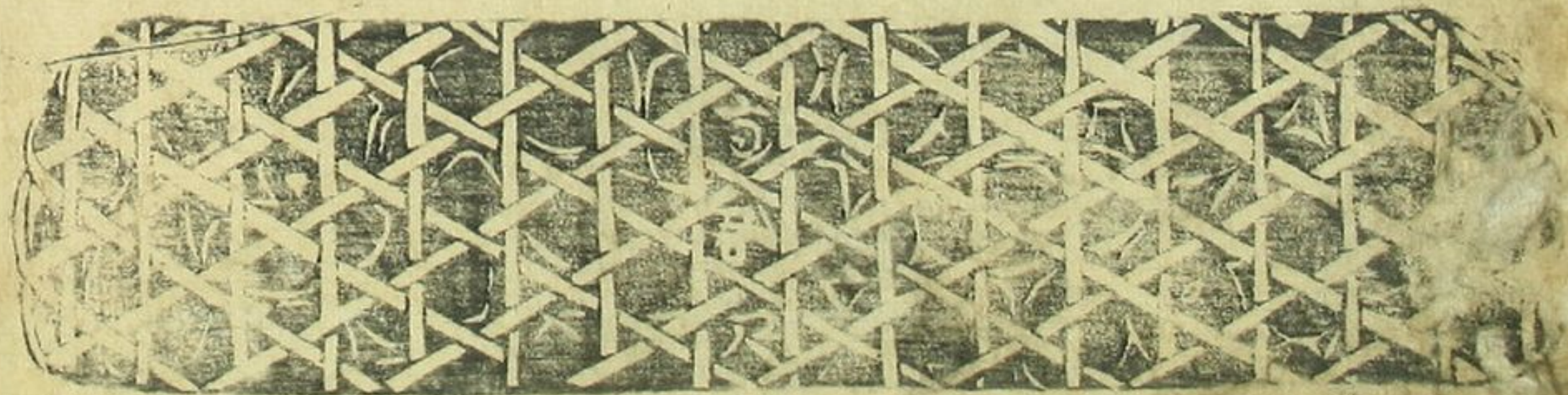
はよ下りていへば...  
くまのし合へば...  
あつとせう...  
〜〜〜  
十七冊の事



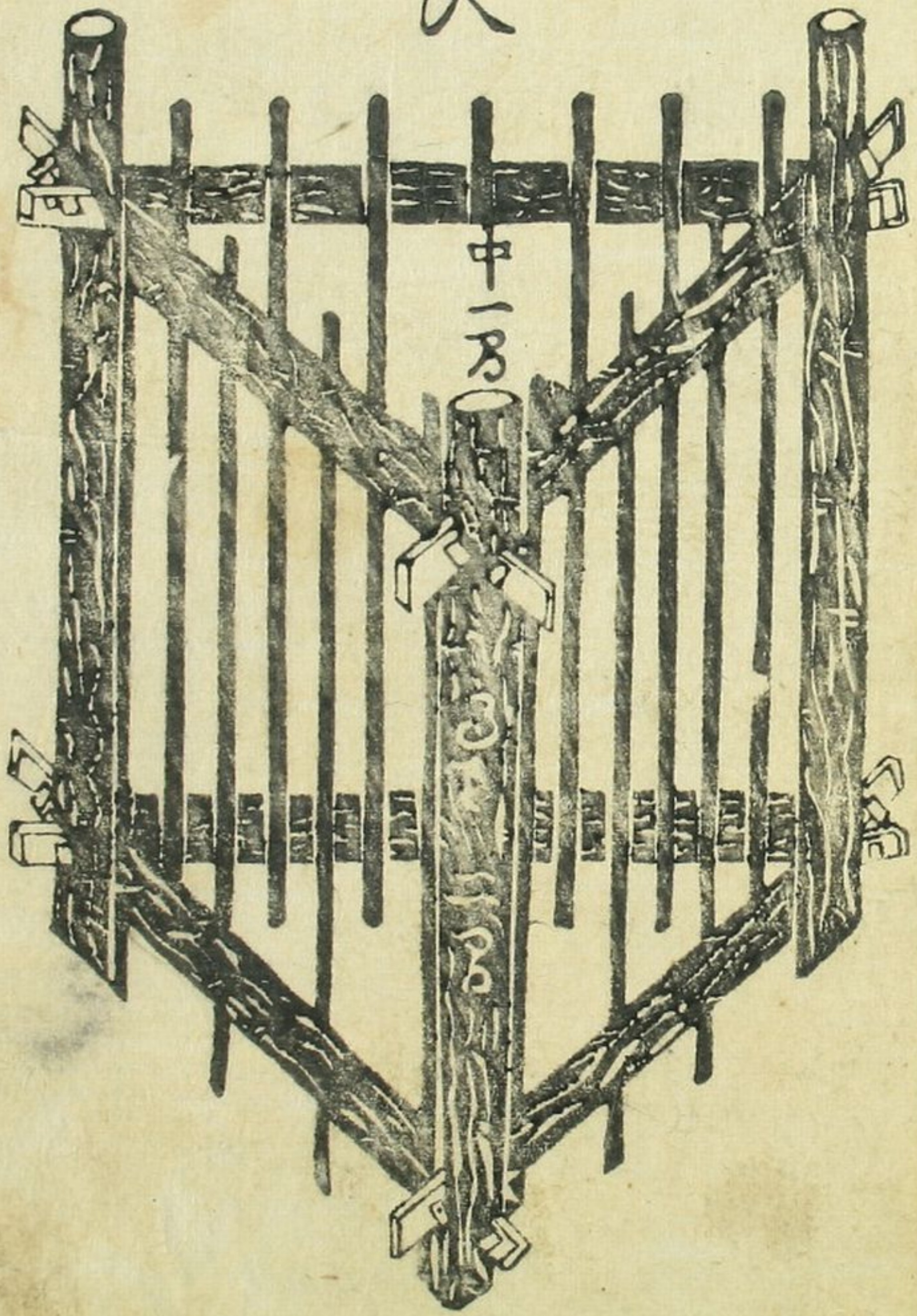
一にやうの乃時よりの舞

四呼二合七支入

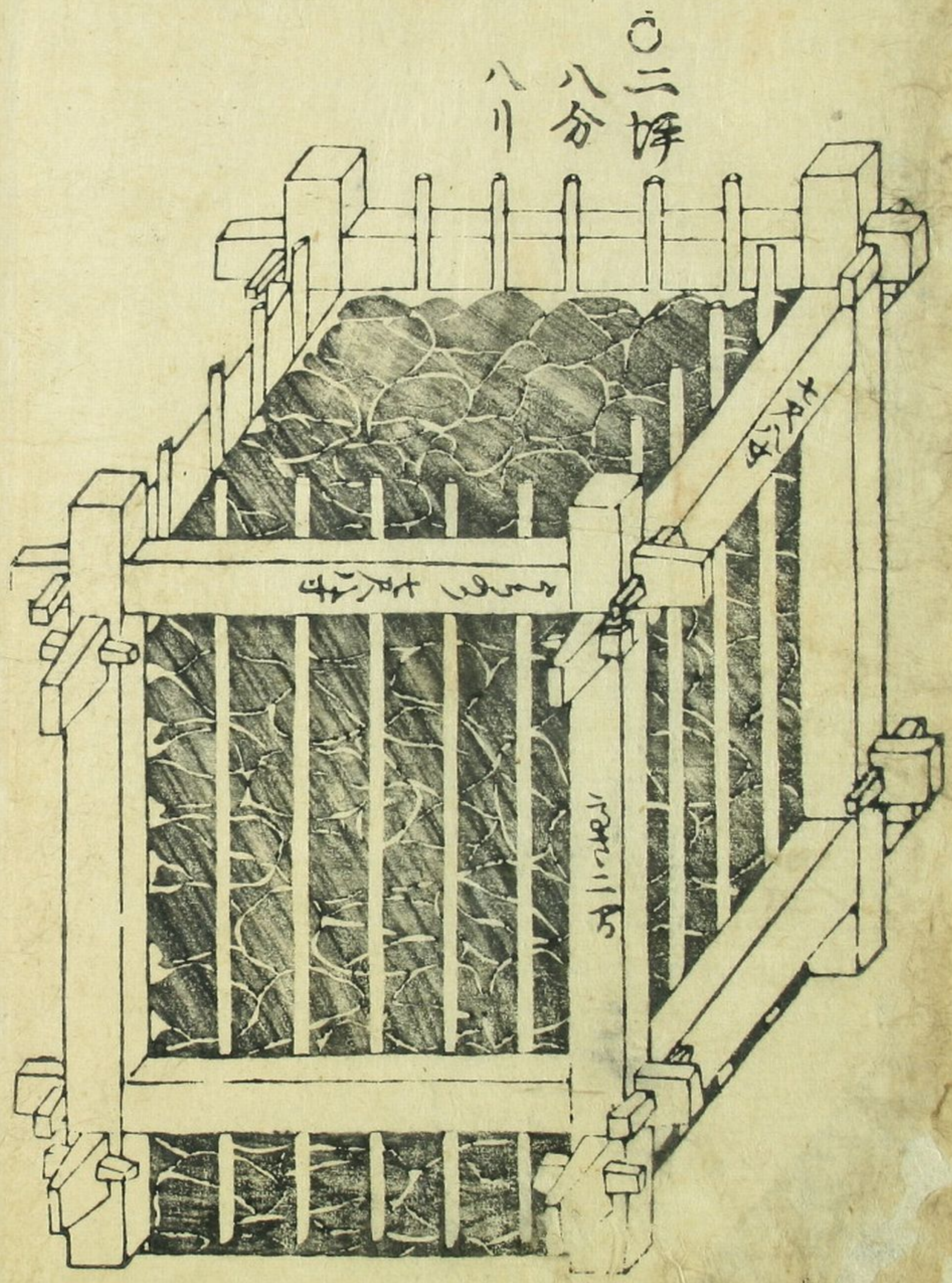
法ふめんと危者よ舞うる  
二めと舞ふるの法七九を  
うらら一五七五といふ  
もこの九をさあつて一七七七五  
の形を四二二五にして  
四呼二合令七支とある



〇二呼入



はよと申すはよと申すはよと申すはよと申す  
はよと申すはよと申すはよと申すはよと申す  
はよと申すはよと申すはよと申すはよと申す



法...  
一坪...  
二坪...  
又...  
下...  
三...  
四...  
五...  
六...  
七...  
八...  
九...  
十...





九尺八寸の分を左右よ<sup>ま</sup>垂<sup>り</sup>か<sup>ら</sup>ずと<sup>き</sup>り  
 九七六一四四と<sup>る</sup>所<sup>は</sup>これ<sup>は</sup>角<sup>法</sup>四三三<sup>か</sup>ら<sup>け</sup>れ  
 四二二六七下三五二と<sup>成</sup>り<sup>し</sup>り<sup>て</sup>ま<sup>さ</sup>二<sup>疋</sup>を  
 つ<sup>ら</sup>い<sup>れ</sup>八<sup>四</sup>五<sup>三</sup>四<sup>下</sup>七<sup>下</sup>四と<sup>成</sup>り<sup>し</sup>り<sup>て</sup>平<sup>坪</sup>法  
 四二二五に<sup>せ</sup>や<sup>り</sup>六<sup>二</sup>坪と<sup>成</sup>り<sup>し</sup>り<sup>て</sup>

才

美つまゝなりけり

一 浅い地銀井へい銀ともあるひ六百七拾五匁あり  
主人三つらと一とてうけとらとまゝなり

一 一からの人くらゝ 七百拾人あり

一 一かられ人くらゝ 千五百人あり

一 一から乃人くらゝ 七百廿人あり

二 二ヶ谷三千人の一かより敷きふ程つたて同時

○ 別口百四拾九匁あり 七百八拾人の分り

○ 別口或百八拾七匁あり 千五百人の分り

○ 別口百廿八匁あり 七百或拾人の分り

法よ一尺の心とウツ七百半人とをまわしぬ。  
五百七十五万とつれと四四八五とたふす  
人のさ三千人てとぬる百四拾九万とさ  
ぬる二尺のさりもさるぬかたの

○つれをさつめはわりてうらりをは  
初めりあけてのちふわりつし

一七百八十人とさて百四十九万はあつり  
一人おのふらうふれつてうむさう時よ

○一人およ一尺二寸四分り八毛ぬとつ  
はよ百四十九万はあつり八毛ぬとつ

九七一七五と成しと七百半人らてぬ  
一尺二寸四分り八毛ぬとつ

一ろりのろりさ三百半三万りよと十五万と  
あつて二万さけ坪敷るふれとあつと時

○一万千四百の拾坪とつ

法よ三百八十三万よ十五万とつれと五千七百  
四拾五坪小なる是り一少さ二万とつれと  
一万千四百の拾坪とつ

一ろりれも四百万はらさ五万とつれと二万二  
け坪の何れとさつとつ

○三千六百十五坪三合ワタヲ五トシヨ

法よ二万二尺と有よ垂<sup>タビ</sup>てけ二万リウ<sup>リウ</sup>リヨ六尺  
五寸かく六一六五尺と成あふじろき、五ヲを  
くく六七五とする成是よ七四百けんとかく付時  
三と成これと六尺五寸にしてヨリ時よ万二千六百  
十五坪三合ワタヤ中しと成合<sup>ク</sup>一○又法より  
二万二尺と有付よ二尺たうりを六尺五寸に  
わり成き二万三下七六九と成これより五万を  
くけて又たろきを割りけんをくく成付四千六百  
十坪三合八タト五リとるなり

一、ありのよきやろろりよじろき五万三尺よよ  
二万二尺あり時よけ坪<sup>ウ</sup>ふ<sup>リ</sup>く<sup>ク</sup>を<sup>ク</sup>る<sup>ク</sup>付時

○五千四拾一坪三合ヲ五とシヨ

法よ二万二尺と有<sup>ク</sup>こ<sup>ク</sup>こ<sup>ク</sup>二万よ六尺五寸を  
くく付一六五尺とする成 又五万三尺よ五万  
リウ<sup>リウ</sup>リよ六五をかく付三六五尺五寸と成是を  
一六め尺よく付五三二五と成あゆよよき  
四万ヲをかく付二二三と成これと四二二五  
にせわりん五千四十一坪三合ヲ五と成付し  
又二二三を六めりて二二ひわりても同率に

ちりのホシも四百段め尺小ひろき五尺三寸  
うき二尺二寸時け坪うり何れとせし  
○五千の橋一坪一合きまきとりし

法は四百尺を尺と成是よりひろきも右とあはく  
四百拾丈の尺と成是よりひろきも右とあはく  
まてこの山をもよへて又少きも一丈五尺  
うて右よりくく山一三八七一六二五となる  
是を右より別よ重又右よ坪の法二七四六二五と  
やまてこれより右をあらけり五尺四寸一坪  
一合とすやゆしちりし

一五千坪を時りちりの口のひろき五尺よ少  
二万およして右よ五千坪れろんきと四時

○かゝる山四百尺よ成とりし

法よ五尺と二万およくこれと十二坪中とかな  
これにて右よ五千坪とよれんもとちを合し  
一又五千坪を時とせうろ小ひろき五尺よりし  
みもこの五千坪のあまこととらぬ時

○少き二万おとしり

法よとせき山百けんよ五尺とく山二千坪に成  
これゆて五千坪とより時二万おとしりし

一 ありのせら田百はしひろき五町より二町を  
ありありとうめいせら田一はうめいはらよ  
せら田の指取よひろき三町より二町は城を  
ありては去めてなふりうまうまの指取

○一町二尺八寸五分うまうまの指取

はよせら田の千町よりひろき三町をくられ  
千四百拾坪とせら田の千町より二町をくられ  
二千の百の拾坪とせら田をくられ別一をきて  
又ひろりてもせら田の五百のひろき五町を  
くられ二千坪とせら田をくられ二千八百八十坪を

わかれ一町四田とせら田一は四田とせら田  
きれぬ時はよ六尺五寸よりくられ一町二尺八寸  
五分とせら田

一 又右よりをうめいせら田一はよりうめて  
ゆくとせら田のひろき五町よりくられ一は

○せきせら田の二尺五分よりうまうまの指取  
はよひろき五町より二町をくられ十二坪と  
かろせら田の二千八百八十坪とせら田の六百  
四とせら田の六尺五寸をくられせら田の三指町  
二尺六寸とせら田の指取

一尺の言一尺一尺五寸よとらん七拾二ありあつ時  
八寸の坪うらふりくまらと向時

○八拾八坪六分一リゆきとら

法よ一尺一尺五寸と右よ<sup>七寸</sup>五拾一尺とらりり  
六五をうらり時一尺とぬこれを七十二あり  
うらり時よ五七六とらりこれを六尺五寸よ  
わらりともさ一八十八坪六分一リゆきとら  
とらり

一や祿坪卅六坪の時こけらあつとらり  
ゆきとらり時一のまらとらり一尺

中よ一尺五寸むひて二寸あり三とらり  
あつとらり一尺五寸のあつとらり二寸あり  
あつとらりとらり三十六坪一尺五寸の入積  
かふりとらり時よ

○三万三千の首ぬ入とらり

法よ四二二五よ卅六坪とらり一五二一と成  
これと右よへちよなき 又ひとらり板の  
とらりや祿此あつとらり一尺めらとらり  
四五とらり是に右よ一五二一とらり時  
三万とらり首ぬとらり

一 とういふれのみ一尺 寸五分ありわさし

○五分 とういのみ一リ二毛四糸九糸

○一寸 とういのみ四リ九毛八糸七糸

○二寸五分 とういのみ一一分一リ一毛八糸

○三寸 とういのみ一一分九リ一毛

○三寸五分 とういのみ一分七下七と七糸

○四寸 とういのみ一分四分四リ下三糸

○四寸五分 とういのみ一分七分七下三糸

○五寸 とういのみ一分九分六リ七毛八糸

○五寸 とういのみ一寸一分三糸

○五寸五分 とういのみ一寸四分一リ二毛七糸

○六寸 とういのみ一寸七分六リ一毛九糸

○六寸五分 とういのみ一寸九分二リ六と二糸

○七寸 とういのみ二寸二分六毛五糸

○七寸五分 とういのみ二寸五分二糸

○八寸 とういのみ二寸七分六毛二糸

○八寸五分 とういのみ三寸一分四毛四糸

○九寸 とういのみ三寸四分三毛六糸

○九寸五分 とういのみ三寸七分一糸



○一尺 ふうたのひ四寸つら四り二毛一糸  
 右の糸高実法とわり付違ふ  
 一あるひむむのひ一尺よりのき此けたまの  
 三割五寸つら一尺のひせよるふ  
 あるるやとつら

○三寸二尺一寸一分わりハ毛五糸よ一  
 法よ二尺よ一丈五寸うね一丈の尺五寸と  
 二尺を五寸つら此法一寸つ分り三糸小  
 かくれも二尺三寸一分五りハ毛五糸と  
 これを三寸よ一尺の

**糸丹**

木のうらやまのあしはてはり



法ほりのまをうるんを四角くとありて  
 又すこことさみみとありて下れますよ  
 小こ石いをうるまりしてきりまけて  
 かしれすこことありてあらわらひて  
 又さしさているまりの糸いと  
 きまてけんごをことうらてみらぬま  
 七なつのこのれよ糸いとだけと三さん足あしのまり  
 時ときりの糸いとのまりのまり



○あまのこ



才

町



この寛永四年の序を有する四巻本  
塵劫記の下冊は

第三之巻（一七より二〇に至る項目）

第四之巻（二一より二六に至る項目）

を含む。この書物では、第三之巻は  
完本、第四之巻は最後の方を欠  
いてゐる。

昭和十四年十二月

小倉金之助



